

主体的・対話的で深い学びへステップアップ ～授業展開例～

1 1時間に学習課題を1つ設定する。

(1) 授業の流れ

○学習課題の提示 → 自力解決 → 全体交流による解決 → ふり返り

(2) 学習課題

- 学習課題が解決できれば、本時目標が達成できたとなるような学習課題を設定する。
- ふり返りで学習課題について具体的に分かったと書けるような学習課題を設定する。
- 学習課題の板書をもって、めあての提示とする。

(3) 自力解決

○自力解決は班の形になって、個人で取り組む。

子どもへの指示

- ・分からなければ、班の子に「ねえ、どうするの?」と聞きます。
- ・聞かれたら必ず応えます。
- ・自分も分からなければ、自分も分からないと伝えます。一緒に考えてもいいです。
(教科書で答えや解き方を探してもいいです。)

(4) 全体交流

①分からない人から発表する。「困っている人はいる?」と聞く。

○「どこまで分かっているか」、「分かっていることは何か」からスタートするとよい。

○分からない人がどこで困っているかを共有し、その子が分かるように意見交流しながら、みんなで学習課題を解決していく。

②次に、自信がないとか、「これは、どうかな?」と迷った答えのある人が発表する。

○自信がない答えや迷った答えに関連づけながら意見交流し、みんなで学習課題を解決していく。

③少数意見から発表する。

④「これは自信がある」という答えのある人が発表する。

※ 課題が感想や意見を書くといった場合の全体交流

○班内で全員が感想や意見を述べあう。

○全体にぜひ広めたい感想や意見があるという人・班に発表させる。

(5) 全体交流での教師の言葉

○子どもの発言に対して、つなぐ言葉だけを言う。

深める場合は、「関連してどうですか。」「意見をつないで。」 広げる場合は、「他はどうですか。」

発言者の声小さかったときは、「今の意見は聞こえましたか。」

発言内容が分からないときは、「先生は今の意見が良く分からなかったので、誰か言い換えて。」

※教師が子どもの意見を繰り返して言ったり(オウム返しをしたり)、その子の意見を分かりやすく言い換えて説明しているということはないか。→ 先生が言うから、友達の意見を聞く必要がなくなる。

(6) ふり返り

○ 分かったこと、疑問に思ったことを自分の言葉で書く。感想を書くのではない。

2 1時間に学習課題を2つ設定する。 ～共有の課題とジャンプの課題～

○一つ目は 教科書程度の課題 … 教科書の問題を使うなど

○二つ目は 発展的な課題

・答えが複数あるもの (例:5つ以上書きなさい)

・解き方が複数あるもの

簡単な解き方を2つ以上知っていると、自分の答えが正しいか確かめることができる。

・教科書程度の問題を数多く取り組ませる。

例えば、教科書程度の問題を黒板に3問書き、取り組ませる。早くできた人は教科書の問題に取り組ませる。答え合わせは、黒板の問題は解き方を含めて丁寧にする。教科書の問題は答えだけを言う。これにより、早くできた人が退屈することはない。力もつく。